

# 令和5年度 筑後市立松原小学校 学力向上プラン

【別紙様式例1】

修正版

■視点1-②

《中期目標》主体的に取り組み、習得した知識や技能を使って課題を解決し、表現し高め合う子ども

〈成果指標〉令和8年度の全国調査の標準化得点:国語102以上 算数100以上

《短期目標》「できた」「わかった」を積み重ねる子供

〈成果指標〉令和5年度全国学力・学習状況調査【小6、中3】において(県標準化得点〈県比〉国語100 算数(数学)95以上)、(四分位層C・D層の割合の合計〈県比〉国語+5% 算数+5% 以下)

■視点5

【家庭・関係機関との連携】

〈取組(指標)〉

⑤学年や習熟度に応じた家庭学習の内容について協議し、保護者へ説明(学期に1回:学年通信、個人懇談等)

〈成果(指標)〉

◆各学年の目標学習時間(学年×10分+10分)学期末自己評価で達成児童の割合80%以上

■視点2

【授業づくり】

〔自己の学びを改善しようとする力の育成〕

〈取組(指標)〉

③⑦スマイルタイムの実施(週案に1日1回以上の計画を明記)及びスタディ・ログをもとに学びを振り返らせる場の設定(ICT活用、1日1回以上)

〈成果(指標)〉

◆児童授業評価(「最後まであきらめずに学習することができますか」当てはまる50%)

〔自分の考えを書く力の育成〕

〈取組(指標)〉

④キーワードカードやスタディ・ログを基に、既習の用語、図・式・言葉で自分の考えを書く活動や書いた文章を推敲する活動を実施(週3回以上)

〈成果(指標)〉

◆児童授業評価(「自分の考えと友達のを比べ、自分の考えをよりよいものにする」3.0以上:4件法)

■視点4

【教員の意識・指導力の向上】

〈取組(指標)〉

⑥小中合同研修会の実施(年3回)  
わかるを実感する授業づくり(見通しをもって学び、振り返ることのできる児童生徒の育成)について共通理解・共通実践を行う。

〈成果(指標)〉

◆小中連携に関する教員アンケート(「小中連携研修会は、授業改善の方向性を見いだすのに役立った。」3.5以上:4段階評定尺度)

■視点3

【学力基盤づくり】

〈取組(指標)〉①「学び道場(算数)」金曜6校時2年(D層のみ)3・4年習熟度別(年間15回以上)くすのきタイム(課外)で漢字・計算の習熟を図る(全学年毎週月・火)

②スマイルタイムで個に応じた学びと協働的な学びの時間の設定(1日1回以上)

〈成果(指標)〉◆学期末まとめテスト(80/100点到達のC・D層児童70%以上)

◆「スマイルタイムで」(当てはまる)70%以上

■視点1-①

県学力調査、全国学力調査及び「授業評価アンケート」、「授業チェックリスト」等から見た「課題」

授業づくりや学力向上の取組に係る「要因」

四分位層の県との差、標準化得点		国語					算数・数学				
		A層	B層	C層	D層	標準化得点	A層	B層	C層	D層	標準化得点
		R4県調査	-0.3%	-9.1%	+4.4%	+5.0%	95.3	-9.3%	0.3%	0.1%	+9.0%
R5全国調査											
課題	・県学力調査(R4小5年)国語「書くこと(-7)」算数「変化と関係(-10)」「データの活用(-13.6)」に課題 ・学力低位層(C・D層)の割合(県との比較)国語(9.4%)算数(9.1%)多く、2極化が見られる。										
質問紙調査等	・児童アンケート(学校独自)「最後まであきらめずに学習することができますか」(当てはまる:40%) ・授業評価アンケート「④自分の考えと友達のを比べ、自分の考えをよりよいものにする」(評定2.8:4段階評定尺度)										

- ①基礎・基本の内容を習熟する時間の確保が不十分
- ②個に応じた学習を進める機会が不十分
- ③学習課題を作る過程や学び(内容、方法等)の高まりを実感する場面が十分設定できていない
- ④自分の考えをつくる(書く)時間の設定が不十分
- ⑤自分の実態に応じた家庭学習を仕組めていない
- ⑥中学校区で子どもを育てる意識が十分ではない
- ⑦ICT機器、情報通信ネットワークを活用した学習の機会を増やす